

〔曲名〕 La Musica Notturna delle Strade di Madrid

マドリッドの夜の音楽

〔曲種〕

〔作曲者〕 L.Boccherini

ルイジ ボッケリーニ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

ボッケリーニは1734年2月19日イタリアのルッカに生まれ1805年5月28日マドリッドに逝いた大作曲家でヴィオロンチェリスト。

ハイドンと共に室内楽の様式の成立に大きな役割を果たし

一方動機による楽曲構成法や模倣の技法はモーツァルトにも影響を与えていると云われる。

最も通俗的に膾炙されているのはミヌエットであるが、

最近英国で出版（1969）されたボッケリーニの全作品目録によれば、580番までの通し番号が附され、このミヌエットの如きは初期の弦楽五重奏曲の中の一つの楽章に過ぎないのに驚歎する。

本曲は標題を正確に訳せば「マドリッドの街の夜の音楽」であるが、

「鳥小屋」と称する弦楽五重奏曲と共に作者の数少ない描写音楽の一つである。

本曲による作者の目的は、黄昏から明方に至るまでにこの町（マドリッド）で聞くことの出来る音楽を彷彿たらしめようとするにあった。

街角の教会堂の鐘、其処から流れる荘重な敬虔な詩歌と民衆の舞踊、燃えさかるカスタネットとタンボリンの響き、

ギターのリズム、其処には自由豁達な音の世界が繰り広げられ構成上の制約は何もない。

やがてこの町に野営に来ていた軍隊の引き揚げとなり之が近づき次第に遠ざかる様子が巧妙な変奏の形で曲を了っている。

元来この野営軍隊引き揚げのテーマは後に作者によって多くの変奏を付された弦楽五重奏（ギターを含

む)

があり之に従った。

猶本曲の原編成は二つのヴァイオリン、ヴィオラ、二つのチェロとなっていて、

模倣音は凡て之等の楽器の種々を奏法の工夫によって効果を出しているが、Tamburoは軍隊用の小太鼓を其儘使用したい。

若し無い場合はギターの手五、六弦を十フレット上で交叉させ之を打つ。

乞食のミヌエットではギターは適当にラスガード奏法を用いるのも面白い。

最初の教会の鐘の模倣音は原曲では上からEADDCの合成音になって居り、之では一向に効果が挙がらないので改めた。

と云っても私の工夫でなく、

ヴァンチェンツォ・ビルリの傑作「夜の鐘」に「鐘のピアスティックを模倣」として認められた合成音を使用した。

従ってロザリオの中に現れるギターの手五の模倣音も之に従ったことをお断りする。

1972年7月28日発行

マンドリン古典合奏曲集第1集より